

## 分科会Ⅰ 第1分科会

### テーマ「生徒の『主体的・対話的で深い学び』につなげる道徳の授業における指導の工夫」

提 案 者 尾道市立美木中学校  
司 会 者 尾道市立栗原中学校  
記 録 者 尾道市立高西中学校  
指導助言者 広島県東部教育事務所

#### 1 はじめに

本校は、尾道市北部に位置する全校生徒155名の学校である。平成27年度から平成28年度まで、広島県「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校、並びに尾道市特色ある教育研究を推進する事業の指定を受け、共感的人間関係を育て、思いやりの心を育む取組を行った。研究推進においては、道徳教育推進教師を中心に、すべての学級のすべての「道徳の時間」に対して、事前の協議を行い、授業はティーム・ティーチングでの指導をし、事後には学習指導案の修正を行った。また、平成28年度には、國學院大学の田沼茂紀教授の「パッケージ型ユニット」の考え方を参考に、「道徳の時間」と他の教育活動との関連を図る取組について研究を進めた。全ての内容項目で道徳性を高めるには年間35時間の「道徳の時間」の質を向上させ、全教育活動を道徳教育の視点をもって行う必要があると考え、これまで行われてきた「道徳の時間」の手法を収集・検証し、その効果、使用上の留意点を確認すると共に、これらの手法に新たな改善を加えて実践することを目指した。

昨年度からは、広島県学力向上推進地域の指定を受け、学区内2小学校と連携して、授業研究及び研究協議を重ねている。学力向上の視点として、ターゲット児童・生徒を決め、家庭教育支援アドバイザーと連携しながら研究を進めている。夏季休業中には、授業のユニバーサルデザインについて小中学校合同の講演会を開催するなど、道徳教育推進校として育ててきた共感的人間関係や思いやりの心を学級づくりの土台とし、誰もが安心して学べる環境づくりを大切にしながら、学力の向上を目指した取組を進めている。

#### 2 研究のねらい

平成27、28年度は、本校の校訓である「こころの扉を拓く」を、「生徒一人一人が自らの意志で内にこもろうとする心（独りよがりの正義）をひらき（修正し）、周りに居る人達と信頼し合い、協力し合おう（本当の正義に向かおう）とすること」と定義し、共感的な人間関係のもと、「主体的・対話的で深い学び」につなげる道徳の授業を目指し、研究の主題を「こころの扉を拓く―自らの心を拓き、信頼・協力し合える生徒の育成―」とした。また、「信頼・協力し合える生徒の育成」について、日常生活において心が動く場面や何かを判断する場面、実践意欲や態度を高める場面では、必ず複数の道徳的価値が絡み合っていることから、特定の内容項目に重点を置くのではなく、人としてバランス良く、すべての内容項目の道徳性を高めることを目指した。

平成28年度は、前年の研究の成果をもとに、研究仮説を「これまで開発されてきた指導方法や指導技術をねらいに応じて最適に組み合わせた授業を核として、各教育活動を連携させれば、生徒の自己肯定感が高まり、生徒は心を拓き信頼・協力し合えるであろう。」とし、カリキュラム・マネジメ

ントを意識した道德教育の研究へと発展させた。具体的な取組として、國學院大學の田沼茂紀教授が提唱されていた「パッケージ型ユニット」の考え方を参考に、「道德の時間」で高まった道德的心情や道德的判断力・道德的实践意欲と態度を日常生活や他の教育活動と結びつけることで、より高めたり、行動に表したりすることができるようにした。

### 3 研究の内容

#### (1) これまで開発した指導方法や指導技術

表1は、本校がこれまでに収集・開発し検証した指導方法・指導技術の一覧である。授業の導入から終末までを大きく4つの場面に分け、場面ごとに活用できる指導方法をまとめたものである。これらを、生徒の実態や授業のねらいに応じて指導方法や指導技術を最適に組み合わせ、効果的に用いることができるよう研究を進めた。

表1 これまで収集・開発し検証した指導方法・指導技術

導入	資料提示	展開での工夫	終末
A 資料への接近	ア 範読 イ 紙芝居	① 役割演技 ・動作化 ・劇化(シナリオづくり)	あ 主人公の今後を考える い 主人公に手紙を書く
B 価値への接近	ウ ペーパーサート エ 寸劇	② 初発の感想を別のものに例え、それを説明させる。	う 教師の話し え 直接的に価値について問う
C 自己の持つ価値観を明確にする ※ワークシートの利用	オ 教師による語り カ 動画 キ さし絵・写真 ク 音楽	③ 小集団の活用 ④ ペアトーク ⑤ 心情円板	お 自己について直接的に振り返らせる か 音楽・映像により心情に訴える
D テーマ発問の投げかけ	ケ GT	⑥ 己の意見の表明 ※ネームカード	き 導入と関連づけた終末 ※自己の持つ価値観を明確にするワークシートの再利用
E 心の耕し	コ 資料の範読と同時に板書を作成(TT)	⑦ 即時他者評価 タブレットPCを利用し、発言と同時に賛否を集計し表示する。 ⑧ 生徒の見取り a 座席表に記入 b 指導案に記入(氏名、予想の意見) c PCの画面上で確認 ⑨ 生徒への評価 a 机間指導の際に、声をかけて評価する c ノートの記述に赤ペンで○をする ⑩ 座ったままのつばやきの勧め	く 他の場面を設定し、判断を問う け 読み物を使用する こ 学んだことを記入する

#### (2) ねらいに応じて教材を最適に組み合わせた授業

田沼教授は、その著書「アクティブラーニングの授業展開 小・中学校道德科」の中で「1単位時間完結型の授業ではおのずと限界が生じてくるように思う。」「時間的制約から一側面での道德的価値内容理解に偏りがちになる授業をユニットの道德的価値のまとまりとしてテーマ設定し、多様に展開していきえるような複数時間・複数価値追求型のユニット(単元)形式、つまり、パッケージ型ユニットプログラムによる道德科授業にしていく必要があります。」と述べ、「パッケージ型ユニット」を「道德の時間」の中でユニットを組むパターン①と②、他教科等との連携を図るパターン③の3つに分類している。「パッケージ型ユニットパターン①」は「テーマに迫るために1教材を複数時間で取り扱う」ものであるが、本校では、「道德の時間」のねらいをより深く達成するための手段として「テーマに迫るために、異なる内容項目を組み合わせる複数時間のユニットを組む」という「パッケージ型ユニットパターン②」を参考にした。道德の時間においては、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせ、価値を深めさせることをねらいとし、また、生徒の実態に沿ってテーマを決定し、異なる内容項目を複数時間で取り扱うことにより、2時間目以降を課題解決学習として位置づけられるものと考えた。

#### (3) 「道德の時間」を核とした他の教育活動との連携

田沼教授が分類した3つのユニットパターンのうち、「テーマに迫るためにクロス・カリキュラム

で取り扱う」という「パッケージ型ユニットパターン③」を参考にした取組を行った。パターン③は、他教科等でテーマに関わる学習をした上で、「道德の時間」に、そのテーマに関わる道德内容項目を取り扱い、さらに他教科等でテーマにかかわる学習を深めるというもので、例えば、地域の祭りへ参加する際の取組や、体育大会などの学校行事と連携した取組を行った。

#### 4 研究の実際

##### (1) 「道德の時間」における「主体的な学び」について

図1は、研究内容のイメージをまとめたものである。「道德の時間」を要として、扇の骨の部分が入内容項目、扇面が学校における全教育活動を表す。本校では、要である「道德の時間」の充実を研究の柱とし、「道德の時間」を「主体的な学びを促す時間」にすることを目指し、「道德の時間」における「主体的な学び」のプロセスには、3つの段階が必要であると考えた。1つ目は、「道德の時間」のはじめに、まず自らの価値観を自覚すること。2つ目は、集団的思考を生かして他者と討論を行うこと。3つ目は、授業後の自分を深く見つめることである。

これらを踏まえ、「主体的な学び」で目指す生徒の姿を図2にまとめた。これらを実現していくためには、絶えず生徒の実態・ねらい・教材に応じた多様な授業を行うことが大切だと考え、先に示した表1の指導方法・指導技術を効果的に用いることができるよう研究を進めた。

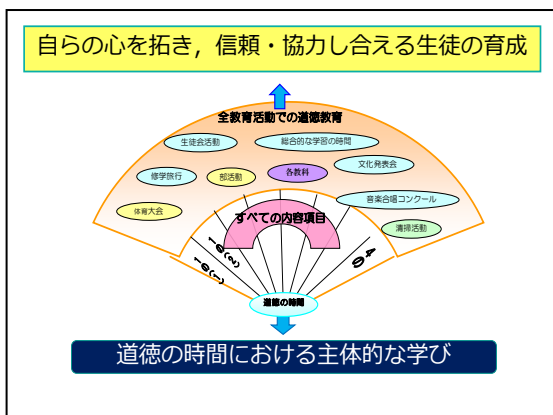


図1 研究内容のイメージ図

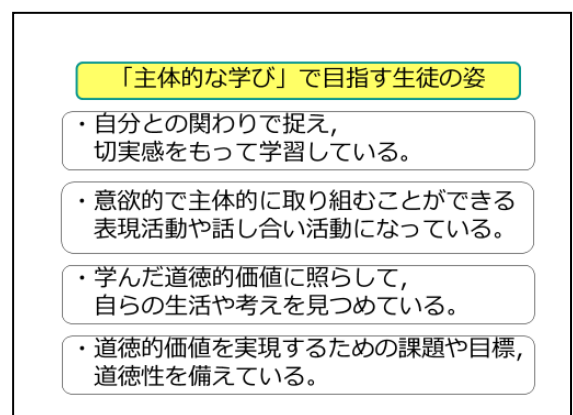


図2 目指す生徒の姿

##### ① 道德的価値観を明確にするためのワークシート

授業の導入段階で自己の持つ道德的価値観を明確にする取組として活用したのが、図3に示したワークシートである。自由記述のみを扱う「タイプA」と、選択肢と自由記述の両方がある「タイプB」の2種類を用いた。授業のはじめに、本時のねらいとする道德的価値について、自分の捉える道德的価値観を自覚させれば、自分との関わりで考えることができると考えた。また、これを終末で再度使用することで、導入と関連付けた振り返りになり、自分自身を深く見つめることができるだけでなく、生徒の変容を見取ることにもつながった。

<p><b>タイプA (自由記述のみ)</b> ※ 時間がかかるため、設問は2つ程度とする。</p> <p>友情について、</p> <p>Q1 あなたの友達を3名程度、名前を書きましょう。</p> <p>( ) ( ) ( )</p> <p>Q2 あなたの友達に共通することは、なんでしょう。</p> <p>( )</p>	<p><b>タイプB (選択と自由記述)</b> ※ ○をつけるので答えやすい。</p> <p>愛校心</p> <p>Q1 美木中学校は良い学校ですか。 大抵 ○ まあまあ ○ あまり ○ 全然 ○</p> <p>Q2 良い学校とはどんな学校でしょうか。 ( )</p> <p>Q3 美木中学校を良い学校にしたいですか。 大抵 ○ まあまあ ○ あまり ○ 全然 ○</p> <p>Q4 美木中学校を良くするために、あなたは何を心がけていますか。 ( )</p>
---	---

図3 自己の持つ道德的価値観を明確にするためのワークシート

## ② パッケージ型ユニット

複数の教材を複数時間取り扱い、1つのユニットとしてねらいに迫ることを目指した図4のようなパターンと、図5に示したような、「道德の時間」を核とした他の教育活動との連携のパターンの2つを実践した。学校行事との連携を行った際には、実施要項の中に関連する道德の内容項目に関する言葉がけの事例を明記し、実際の指導に生かした。

複数の教材を複数時間で取り扱うことにより、生徒は多面的・多角的に物事を考え、学んだことや感じたことに対して、自ら課題意識を持って2時間目以降に臨むことができた。

複数教材を複数時間での取組  
-パッケージ型ユニットパターン②の事例-

◇**ユニットテーマ**：「決まりについて考える」  
内容項目C【10】遵法精神、公德心  
◇**テーマのねらい**：決まりについて、多角・多様的に見つけ、法や決まりの意義について考え、秩序と規律ある社会に高めていこうという意欲を高める。

<b>教材1</b> 「あるレストランでの出来事」 (出典：ディズニー流心理学 三笠書房) 主題名 温かい人間愛 内容項目 B【6】思いやり、感謝	<b>教材2</b> 「二通の手紙」 (出典：文部科学省「私たちの道德」) 主題名 きまりを守る 内容項目C【10】遵法精神、公德心
---	--

図4 パッケージ型ユニットパターン②の実践

道德の時間を核とした他の教育活動との  
連携パッケージ型ユニットパターン③の試行  
尾道みごと祭り「ええじゃんSANNISA・がりコンテスト」との連携構想

**2年生**  
◇**ユニットテーマ**：内容項目B【8】友情・信頼  
：内容項目A【2】節度  
◇**テーマのねらい**：節度ある友人関係を作る。

**3年生**  
◇**ユニットテーマ**：内容項目A【1】自主・自律  
：内容項目C【14】社会参画・公共心  
◇**テーマのねらい**  
：自らの力で、郷土の祭りを盛り上げる。

図5 パッケージ型ユニットパターン③の実践

## 5 成果と課題

### (1) 成果

多様な授業スタイルで行うことで、「道德の時間が好き」「道德の時間が役に立っている」というアンケート項目に肯定的な評価をしている生徒が増加した。共感的人間関係を築くことにより、生徒が仲間と共に学びに向かう姿勢が身に付いてきた。「道德の時間」に、教師からの発問に対してだけでなく、友達の意見に対しても「よく考えている」という結果も出ており、主体的に学ぼうとする生徒に変容してきたと言える。これまでに開発されてきた指導方法・指導技術を実際に活用してみると、留意すべき点や効果的に用いる方法が見つかり、次の「道德の時間」だけでなく、各教科での活用も期待できるものとなった。また、パッケージ型ユニットの実践を通して、「道德の時間」を核として他の教育活動と連携させると、各教育活動単発の取組よりも効果があることがわかった。生徒の道德性を高めるために、「道德の時間」を核としたカリキュラムを工夫することは効果的であると言える。

### (2) 課題と今後に向けて

「道德の時間」による指導方法・指導技術の工夫や多様な授業スタイルによる実践を重ねることにより、「よく考えている」生徒は増加傾向にあり、一定の成果があったと考えられる。一方で、今年度7月に実施したアンケートの「授業では課題に対して自ら考え、自分の考えを書くことができる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒は33%にとどまっている。そこで、今後は「道德の時間」で研究した「パッケージ型ユニットパターン③」の「他教科でテーマに関わる学習の工夫」をさらに深化させていきたい。また、教科の学習においても、教材研究に重点を置き、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができるような探究的な学習をめざしたい。そのために、本校の重点項目である「書く活動」をすべての教科等の指導、教育活動に効果的に位置付け、単元を貫く問いの質の向上をめざして研究を進めていきたい。「書く活動」を本校のカリキュラム・マネジメントの核と位置付け、道德性の発達をめざした「書く活動」を充実させていきたい。